

授業科目名[英語名]						
仮説実験授業 [Hypothesis experiment instruction]						
担当教員名[連絡先(TEL,研究室など)]						
松野修[099-285-7292]						
E-Mail	Matsuno036@life.kagoshima-u.ac.jp		受講対象	全学部		
課程区分	共通教育	学科/科目・分野等	教養 5 分野	開講期	前期水曜 2	単位等 2
共同担当教員名						
教育目標のキーワード						
視野・判断力・探求能力/コミュニケーション能力と相互理解						
学習目標(学生の達成 目標)						
教育の根本問題について簡潔に論述できる。 科学認識における仮説と実験に意義について論述できる。 授業におけるイメージの重要性について説明できる。 理想的な教育・授業について提案できる。						
授業概要(目的・内容・方法)						
これまで日本では上級の学校に進学すればまちがいなく収入はふえ、社会的な出世を期待することができた。しかし日本が先進国の仲間入りを果たし、上級学校への進学者もふえるにつれて、学校はかならずしも苦勞しながら勉学に励む場ではなくなってきた。こうした時代にあって、教育にはどのような新しい内容や方法がもとめられているのか。本講では「仮説実験授業」にもとづいて将来の教育にもとめられる基本的な内容、方法などについて解説する。 とはいえ「いま、求められている教育の方法はなにか」と大上段にふりかぶってみたところで、具体的な授業の内容や方法を抜きに論じるのでは中味のない議論になってしまう。ひとくちに授業といっても、そこには理論、技術、技能の3つの側面がある。まずはお手本になるような授業を紹介し、技能を磨き、理論の理解を深められるよう配慮する。						
授業計画(15回に分けて、回数、日付、授業内容、授業外活動など)						
《自由電子が見えたなら》より 《もしも原子が見えたなら》(1) 《もしも原子が見えたなら》(2) - 分子模型づくり - 分子模型を使ったカードゲームの紹介 - 大学公開講座での仮説実験授業の紹介 《イオンとたべもの》(1) 《イオンとたべもの》(2) 《燃烧》(1) 《燃烧》(2) 《燃烧》(3) 《三態変化》(1) 《三態変化》(2) 《三態変化》(3) - 学校以外での仮説実験授業の紹介						
受講要件	受講者は35人に限定。講義では実際の「授業」を体験したうえで、最後に解説を加えるという形式をとる。そのさいあらかじめ「答え」が分かっている参加する意欲がなくなってしまうばかりか、他の人の学習意欲まで奪ってしまいかねない。そこでこの講義に限っては予習は厳禁とする。					
評価基準および方法	講義のあとにレポートを提出する(毎回10点×10回)。					
教科書	指定せず。	参考書	講義のなかで適宜紹介する。			
授業時間外対応(オフィスアワー、授業後、学習シートなど)	【フェイスワ-】毎週金曜午後6時から、生涯学習教育研究センター演習室で自主ゼミを開いている。 【メール・HP】生涯学習教育研究センターのブログ http://blog.livedoor.jp/lifelong_kadai/ でもこの講義に関連する活動を公開している。		その他	受講者は40人以下に限る。		